



花園大学 後援会事務局 〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 Tel.075-279-3630 (直通) Fax.075-823-2412

### 学長ご挨拶



学長 磯田文雄

### 花園大学と学制発布

花園大学は明治五(一八七二)年妙心寺山内に「般若林」が創建されたことにより始まりました。まさに、明治四年に廃藩置県が行われ、明治政府が名実ともに国民国家として確立したその翌年であり、明治の三大改革が始まった年でもありました。

明治五年八月二日、学制の趣旨を宣言した太政官布告とともに「学制」が公布されました。明治の三大改革の一つとして、日本に初めて近代的な学校制度が導入されたのです。学校が目的とするのは「人々自ら其身を立て、其産を治め、其業を昌にする」ことです。「邑に不学の戸なく家に不学の人なからしめんことを期す」という大きな抱負のもと学制は開始されました。

この時、我々の先輩たちはいかなる思いで「般若林」で学んでいたのでしょうか。本年、花園大学は創立百五十周年を迎えます。改めて先達に思いを致し、本学の未来を展望してみます。

### 自立性・自律性

文部省は学制を定めて従来の人々の学問に対する考え

方を改めさせ、人々にひとしく学問を授けることを計画しました。

第一に、太政官布告は、立身・治産・昌業のためには、人々すべてその身を修め、智を開き、才芸を長することが緊要であると論じています。

これに対し、本学の建学の精神は「禪的仏教精神による人格の陶冶」です。その目的は臨済宗の宗祖である臨済禅師が「随処に主と作れば、立刃皆な真なり」と言われるように、どの様な状況であっても主体的に行動できる、自立性・自律性を養成することです。すなわち、学制という立身とは、建学の精神で謳っている自立性・自律性なのです。

### 多様性と包摂

第二に、学制における学校制度の根本方針は、国民のあらゆる階層に対して二種類の学校を用意するというものでした。江戸時代は武士のための学校と庶民のための学校がそれぞれ別個に構成されていましたが、明治政府はこれを一つに合わせて組織しました。「この点をいままでもその言葉のとおりを実現したところに」(学制百年史、文部省)我が国の学校教育発展の端緒があったと言われています。

学制発布から百五十年、国連の「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」は持続可能でよい世界を目指す国際目標において地球上の「誰一人取り残さない」(leave no one behind)ことを誓っています。花園大学もその特長として「面倒見の良さ」を掲げていますが、これは、「持続可能な開発目標」でいう「誰一人取り残さない」ということです。今日、大学においても多様性(ダイバーシティ)が増えています。多様性は社会的・経済的活力の源泉であるとも考えられています。花園大学は多様性を一つの大学という組織の中に包摂し「誰一人取り残さない」活動を展開しています。学制が一つの学校制度によって我が国の教育を進展させたのと同じです。

学制の精神である自立性・自律性、一つの教育組織に包摂するという考えは、花園大学の今に生きているのです。

## 前期学位記授与式



夕暮れといってもまだ明るく半袖の学生たちが学内を歩いている9月30日(木)の18時、本学教室ホールにて、2021年度前期学位記授与式が、感染症対策を徹底して挙行されました。

卒業生は学部生15名と大学院生3名。磯田文雄学長から一人ひとりに学位記が手渡されました。学長式辞では「花園大学で学んだ学生たちには、将来、どの場所で生活しても、その場所を大切にしていきたい」と述べられました。引き続き、山本清文文学部長、小海宏之社会福祉学部長が巣立つ卒業生に向けての言葉を贈られました。

式終了後、卒業生は出席の栗原正雄最高顧問(当時)と学長をはじめとする執行部の先生方を囲んで、記念撮影をしました。

## 大学摂心

後期授業が始まる直前の9月17日(金)、大学摂心を開催しました。例年は2日間行われるのですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学内で午前中のみの開催となりました。また、県をまたぐ移動制限も要請されていたため鎌倉円覚寺の横田南嶺総長の参加も叶いませんでした。総長のお話を拝聴できず残念でした。



参加者は学生、教職員あわせて13名と少なかったのですが、客員教授である寶積文承老師の指導のもと例年以上しっかりと坐っていました。摂心終了後は、精進のお弁当を昼食として食べてもらいました。

## 学生の視野、興味の幅を広げる就職支援



新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、学生を取り巻く就職活動状況は、インターンシップを含めた説明会や面接のオンライン開催が一般化するなど、ここ数年で大きく変化しています。11月に開催した『就職ガイダンス』は、対面とオンライン動画配信を併用する形で実施しました。しかし、2022年に入ると一気に感染状況が悪化の一途をたどり、対面でのイベント開催を断念せざるを得なくなりました。当初、対面での開催を予定していた2月開催の『就活準備講座』(就活の流れやマナー、履歴書の書き方、求人票の見方、学外サポート機関の活用説明、業界研究など)、3月開催の『就職説明会』もオンラインとオンデマンド動画配信を併用して実施することとなりました。

『就職説明会』は、従来の短期集中・大規模型から、1日6〜8団体に厳選した参加企業・団体がリレー方式で説明をおこなうスタイルに変更、今年計6日間実施しました。すべての参加企業・団体の説明を聞くことにより、「知らない」から「知る」へ、学生の興味の幅、視野を広げる場を創出する新たな取り組みです。



### 就職課の基本姿勢

「ひとり」に寄り添い、学生本人が納得できる進路を探す支援をするため、花園大学就職課は、刻々と変化する状況に合わせて支援を日々考え、実行するように心がけています。

## 人権週間

第35回 花園大学人権週間報告

2021年度の人権週間は、対面+オンラインという形式で、12月6日から9日まで開催いたしました。

前夜祭は映画「星の語り〜Starry Sky〜」の上映、続いて作家・活動家の雨宮処凛さんと本学吉永純教授による対談「貧困パンデミックと女性、若者の未来」、ローカル・アクティビストの小松理慶さんによる「10年目の福島 共事者と生きる」、元伊丹市役所職員の藤井裕行さんによる「コロナ禍で見えてきた日本



手話の相克と共生の歴史」耳の聞こえない人たちの手話・耳の聞こえない人たちの手話」の3本の講演会を開催しました。雨宮さんからは、コロナ禍における女性・若者の貧困問題について、悲痛な叫びを聞きました。そのように過酷な状況があるにも関わらず、「経営者マインド」の人が多いのは

「ここから」の大切さを思いました。感染拡大の間、絶妙なタイミングでの開催でしたが、講師の方にお越しいただきお話を伺えたこと、本当に貴重な時間となりました。ここに感謝申し上げます。

なぜか、世にはびこる自己責任論の厄介さを知りました。小松さんは、震災から10年を経た福島からお越しいただきましたが、ご自身の経歴や福島を紹介など以外なところからお話が始まり、最後には「当事者でなければ語れないのか」という疑問から、共事者として関心をもち関わるこの大切さを伺いました。藤井さんはご自身で手話通訳をされながらの講演で、手話の歴史について、詳しく教えていただきました。学生からは、初めて聞く手話の歴史に、知ることができてよかったという声もあり、改めて「知ることから」の大切さを思いました。

## 保存期間が迫る 防備食品も学生に配布



保存期間が迫る防災備蓄食品をセットにして、学生に配布しました。

この防災備蓄食品は、後援会からの支援により購入したもので、災害に備え、学内各所に防災用品をおよそ3日分備蓄していました。今回、備蓄品の入れ替えをすることになりました。実際に備蓄食品を食すことによって、防災備蓄の重要性や食べ物大切さを意識するきっかけとさせていただくことが目的です。

配布会場には多くの学生が詰めかけ、防災備蓄食品のセットを持ち帰っていました。



## キャンパス整備事業

学生会館とトレーニングルームの移設に伴い、それぞれの解体工事がまもなく始まります。学生会館は楽道館へ、トレーニングルームは自適館地下へ移設します。

新返照館は5月末の完成に向け、鉄骨建方やコンクリート打設が完了し、内装の仕上げ工事を進めています。



右京区制90周年新春のつどいオープニングセレモニーでの書道パフォーマンス▲

### ●バリエティに富んだユニークな講座を動画配信

2021年度後期も、新型コロナウイルス感染症拡大のため、YouTubeチャンネル《BASE花ここ》に情報発信の軸を置き、「京都学講座」「地域連携講座《まなび庵》」「Web Live京町家でまなび庵」など、地域の学びの拠点となる花園大学の知的財産を存分に活かした講座を動画で配信しています。

※地域連携教育センターYouTubeチャンネル《BASE花ここ》はこちらからご覧いただけます▶

check here!



### ●地域に飛び出して活躍する学生たち

また、このコロナ禍の中でも、茶道部和敬會による「親子点茶体験と呈茶サービスプロジェクト」や文学部日本文学科現代文化ゼミによる「みんなで編み物企画」など地域と連携した学生の取り組みや、京都市右京区制90周年新春のつどいオープニングセレモニーを飾る書道パフォーマンス、子ども向け防災リーフレット制作、右京区選挙サポーター活動、さらに学生によるYouTube動画制作、コミュニティラジオ番組制作及び出演など、学生が地域に飛び出して活躍する場も増えてきました。

※各種学生の活躍については、地域連携教育センターのホームページにアップしています。ぜひ、チェックしてみてください▶

check here!



## 保護者専用Web問い合わせフォーム開設

お子様に関する様々な問い合わせを24時間受け付ける保護者専用Web問い合わせフォームを大学ホームページ内に開設いたしましたのでご活用ください。詳しくは以下のURLもしくは大学ホームページ「保護者の方」のページをご確認ください。

なお、従来通り電話や大学窓口での相談も可能です。この保護者専用Web問い合わせフォーム開設にともない例年実施しておりました教育懇談会(大学内での相談会)は、参加者の減少もあり今年度より保護者専用Web問い合わせフォームに移行いたします。



「保護者専用Web問い合わせフォームURL」<https://www.hanazono.ac.jp/contact/> ▲



ラグビー部

クラブサークル探訪

一夢・目標・輝く学生たち一

2020年度は新型コロナウイルスの影響でリーグ戦が中止となり、交流戦形式での消化試合となりましたが、2021年度は無事にリーグ戦が行われ、総合4位という結果でシーズンを終了しました。...



2022年度も新型コロナウイルスの影響により練習環境など不安もあります。が、一つでも多くの勝利を目指して頑張ります。

硬式野球部

硬式野球部は2021(令和3)年4月から長年京都の高校野球界で指導者として活躍した奥本保昭氏をヘッドコーチに迎え、東監督との2名体制で指導を受け選手37名、スタッフ3名で活動しています。



春季リーグ戦は、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けました。リーグ途中で緊急事態宣言となりグラウンドの使用不可、途中での休戦など想像できない事態が起こりましたが、幸いリーグ戦は再開され、結果は4位でした。

当り前に行われてきたリーグ戦が出来なくなることでも落胆もしましたが、逆に野球ができることへの感謝やコロナ感染対策をしながら工夫して練習することで、モチベーションアップにつなげています。

秋季リーグ戦は、3戦目は行わず2戦で勝ち点制と変更になりました。5勝4敗1分で3位でした。順位は上がったものの課題が見つかり次年度はそれを修正していきます。

8月に予定していた2022(令和4)年度新入生向けセレクションをコロナの影響から9月学内説明会へ変更、12月25日に合格者説明会を開催し、4月には41名が入部予定です。

新体操部

今年で創部31年目を迎えた花園大学新体操部は、2021年度も皆様のご支援のおかげで無事に活動を行うことができました。今年度の全日本学生新体操選手権大会では女子個人1名出場、女子団体では総合8位と昨年より順位を一つ上げる事ができました。



今年度も新型コロナウイルス感染症が猛威を振りました。が、教職員の皆様のご協力のもと試合前には大学で学内演技会を開催させていただき素晴らしい環境の中で試合を想定した練習をさせて頂きました。

また昨年はできなかった予定期発表会も開催させていただき、初の試みとしてYouTubeライブも行いました。100名を超える方がリアルタイムで視聴して下さり、充実した発表会となりました。

剣道部

また、対面での試合や発表会が有観客で開催される日まで部員一同精進してまいりますので今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



剣道部では、男女共に全日本学生剣道優勝大会への出場という大きな目標を掲げ、真剣に日々の練習に取り組んでいます。

京都市出身の学生はもちろん、他府県出身の学生もたくさん入部しております。部員一人ひとりが着実に実力をつけ、その結果、女子は京滋学生剣道新人大会において団体優勝、個人戦も準優勝。また関西女子学生剣道選手権大会においても個人第3位、関西代表選手として全日本女子学生剣道選手権大会に出場という成績を収めました。

私たちは目標の一つとして、剣道において大切な「心・技・体」の一致を心がけ、日頃の練習に励んでいます。トレーニング方法も大きく進展し、基礎体力の向上に余念がありません。剣道の魅力は、体の大きさとは関係なく、一瞬で、それも美しく勝負が決まることにあります。その一瞬のために、日々練習を積み重ねています。

2021年度公開講座 禅とこころ

ご来場の皆さまの健康と安全の確保、また新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、2021年度の「禅とこころ」は当面の間、一般の方(科目等履修生・聴講生を含む)の聴講をご遠慮いただく事にいたしました。...



**丹治 光治教授 以下丹治** 廣瀬さん、ようこそ花園大学へ。そして、おかえりなさい。

**廣瀬 順子選手 以下廣瀬** ありがとうございます。

**丹治** 前回、5年前にお会いしたときはご主人の悠さん(東京パラリンピック柔道90kg級日本代表)も一緒に、夫婦の馴れ初めなどお話ししていただきましたね。今回は東京パラリンピックの話や大学時代の話などをお聞きしようかなと思っています。本当に今年は大変だったと思います。東京パラリンピックが1年の延期、無観客での開催でしたよね。通常の大会とは全然違った雰囲気や苦労などあったのではないかと思います。改めて今回の雰囲気はどうだったのか、苦労された点や感想などを聞けたらなと思うのですが、いかがでしょうか。

**廣瀬** 柔道という競技はコンタクトスポーツなので、新型コロナウイルス感染症が流行してから練習環境を確保することが難しくなりました。練習が十分にできないこともあり、不安を抱えたまま東京パラリンピックを迎えましたが、コロナ禍の開催について賛否両論ある中、選手村に入ると大会ボランティアの皆さんがすごく温かく笑顔で迎えてくれたので、「不安」から「楽しい」という気持ちになりました。前回大会(リオパラリンピック)は、現地の選手が出てくると会場が揺れるくらいの声援がありました。今回は無観客だったので会場の盛り上がりを感じられなかったのは少し残念だと思いました。観客の方の声援が競っているときの最

後の力になるので。でもパラリンピック以外の国際大会は観客が少ないので、あまり雰囲気が変わらなかつたという点では緊張感も少なく、リラックスした状態で試合に臨めたと思います。

**丹治** コロナが流行する前は全く違った雰囲気や大会に臨まれたのですね。廣瀬さんが言われたように柔道は相手と接近して行う競技なので、距離を取って練習するのは難しいですね。その点、廣瀬さんは夫婦で練習されていて、メリットがたくさんあると思うのですが、逆に身近過ぎてちょっと困ったりすることはないのでしょうか。たとえば夫婦喧嘩をしたときはどうするのですか。

**廣瀬** 夫婦喧嘩をしても柔道に持ち込まないようにはしています。家事は旦那さんの方が得意なので、家事のことで私が至らないところが溜まりに溜まって1年に1回くらい怒られて喧嘩になります。

**丹治** 家庭でいろいろあっても職場に行くと仕事はできるんですけど、お2人はいつも一緒にいるのですか。練習のときは気持ちを切り替えることができるのでしょうか。

**廣瀬** そうですね。基本的に喧嘩をしても15分くらい経ったら仲直りしています。競技の面では一緒にいて辛いと感じたことが無く、「楽しい」とか「安心感がある」という気持ちの方が強いです。とくにコロナが流行してからは柔道場に行けなかったのが、家で柔道着を着て、フローリングで打ち込みしてみたり、庭でトレーニングをしてみたり、そういうことも2人だったから楽しくできた

と思います。

**丹治** 無観客であっても本番はとても緊張すると思うのですが、どういふふうリラックスしているのか、大舞台に立たれた経験からぜひ対策を聞きたいと思います。

**廣瀬** 私は試合前、すごく緊張して眠たくなってしまっています。以前、スポーツ心理の先生にお話をしたら、「興奮しすぎたのを抑えるために眠たくなっているの、顔を叩いたり、体を動かして緊張をリラックスの丁度いい状態に持っていくといい」と言われたので、試合前は目を無くすために顔や体を叩いて、普段とは違う試合モードに持っていくんです。

**丹治** なるほど、とても納得しました。緊張と緩和はセットになっているため、体が自然にそういった反応をします。そのバランスをとることが大事ということですね。当然、試合のときは集中しなくてはいいけど、けど、その前にどこまで自分が平常心を保っていられるかがすごく重要だと思えます。廣瀬さんの場合、心理学を学生時代に勉強されて、どんな思い出があるのか、花園大学生時代のエピソードをいくつか聞かせてください。

**廣瀬** そうですね。私は臨床心理学科に入学したのですが、この学科が一番取れる資格が多くて、

当時、その資格すべてに興味があったので、それがきっかけで臨床心理学科に入学しました。途中、福祉にも興味湧いて、社会福祉学科のコマを中心に授業を受けていました。



# 特別対談

社会福祉学部臨床心理学科  
**丹治 光治教授**

東京パラリンピック・日本代表  
**廣瀬 順子選手**

**丹治** 特別支援の授業を受けたら、福祉の資格を取ろうというのを勉強されたというのを聞きました。柔道の練習ももちろんさされてきたわけですね。

**廣瀬** 大学入学当初は、高校までの部活動がすごくしんどかったの、あえて柔道部の無い花園大学に入学したんですけど、途中からやっぱり一生懸命になれるものが欲しいなと思って、3回生頃に視覚障害者柔道を始めました。ただ、花園大学には柔道部が無いため、練習できる場所がなかなか見つからなくて、近くのスポーツクラブでトレーニングをして、月に1回くらい東京で行われる合宿に参加していました。

**丹治** 廣瀬さん自身のこれからの活動の計画や想い・決意・方向性を聞かせていただけますか。

▲参加者有志との記念撮影 ▲磯田学長との記念撮影